

平成29年度
第4回 対策地域内廃棄物処理業務等（減容化処理）に係るアドバイザー委員会
議事要旨

日時：平成30年3月5日（月） 13:00～14:30

場所：TKP東京駅日本橋カンファレンスセンターカンファレンスルーム203

出席委員（敬称略）

公益社団法人 全国都市清掃会議 技術指導部長	荒井 喜久雄
国立環境研究所 資源循環・廃棄物研究センター センター長	大迫 政浩
岡山大学大学院 環境生命科学研究科 教授	川本 克也
国立環境研究所 資源循環・廃棄物研究センター 基盤技術・物質管理研究室 室長	倉持 秀敏
国立環境研究所 資源循環・廃棄物研究センター 客員研究員	高田 光康
東北大学大学院 環境科学研究科 研究科長 教授	吉岡 敏明
京都大学大学院 工学研究科 都市環境工学専攻 教授	米田 稔

オブザーバー

東京二十三区清掃一部事務組合 主任主事	箴島 保
---------------------	------

議事要旨

I 本日の議事

1. 大熊町における廃棄物処理業務（減容化処理）について

II 質疑応答

1. 大熊町における廃棄物処理業務（減容化処理）について
冒頭、三菱・鹿島共同企業体（以降、JVと記載）より、業務内容について説明があった。

（1）処理対象物の性状について

委員より、今後予想されるごみ質の変動に対して、かくはん・混合によってごみの均質化を図るとのことだが、受入貯留ヤードとごみピットでどの程度の貯留ができるのかとの質問があった。JVより、受入貯留ヤードは7日分程度、ごみピットは3日分程度の貯留が可能であり、ごみのかくはん・混合による均質化は十分可能であるとの回答があった。

（2）非常停止時の安全管理体制について

委員より、非常停止操作を行った場合、どのような状態で運転停止になるか、また、非常停止操作の試験は行ったかとの質問があった。JVより、非常停止操作は人命にかかわる緊急時に実施するものであり全ての送風機等が運転停止するとの説明があり、また、試

運転時に緊急作動試験（意図的に停電状態にさせて非常停止と同様の状態とする。）を行って安全に運転停止することを確認したとの回答があった。

(3) 主灰及び飛灰の放射性物質濃度について

委員より、試運転時の主灰及び飛灰の放射性物質濃度の測定結果は、主灰のほうが飛灰より高い傾向にあるとのことだが、除染廃棄物の処理割合によって変動があると考えられるため、今後の主灰及び飛灰の放射性物質濃度の推移に注意すべきであるとの助言があった。

(4) 放射線管理について

委員より、作業員の被ばく線量は測定しているか、また、定期的に作業員へその結果を伝えているか、との質問があった。JVより、全ての作業員に対して一人一つの線量計を携帯させて被ばく線量を測定、記録しており、また、その結果は1か月に1回集計して各個人に報告しているとの回答があった。

以上